

市民討議会提言進捗管理表（令和5年度実施分）

討議テーマ 『このまちの未来は 私たちが守る』～みんなで考えよう、楽しみながらできる持続可能な取組～

地球温暖化防止に向けた、温室効果ガス実質排出量ゼロを目指した脱炭素の取組（ゼロカーボン）について、積極的に楽しみながらできることを考えよう！

No.	提言				取組		
	項目	内容	事業名・事業内容	【担当課】	R6年度	R7年度	R8年度
1	市民への参加の促進	ゼロカーボンへの行動につなげるため、市民の取組に対しポイント制度による資源回収ごみ袋の配布を行うなど、市民への参加を促す。	脱炭素チャレンジ事業（新）	環境課	家庭からの排出される温室効果ガスを削減するため、市民一人ひとりが脱炭素につながる行動を考え、市全体でのゼロカーボンへの気運が高まるよう、家庭でも取り組める「脱炭素チャレンジ事業」を実施したが、光熱費を報告期間とチャレンジ実施の期間が長いことがネックとなり、参加者数の目標値を達成することができなかった。	—	—
			ごみ減量協力還元事業	環境課	生活系ごみの排出量目標値を達成することができたため、市民への還元策として資源回収袋を配付し、今後さらなる削減に向けた意識啓発を行う。	R6年度の生活系ごみの排出量目標値を達成することができなかったため、資源回収袋の配布を行わなかった。目標値達成のため、市民へのごみ減量・資源化の更なる啓発を図る。	—
			乾燥堆肥トイレットペーパー交換事業	環境課	家庭から排出される生ごみの自家処理を促進するため、生ごみを乾燥してできた乾燥堆肥をグラム数に応じてトイレットペーパーに交換する。	【継続】家庭から排出される生ごみの自家処理を促進するため、生ごみを乾燥してできた乾燥堆肥をグラム数に応じてトイレットペーパーに交換する。 【新規】生ごみの自家処理促進のために交付している生ごみ処理機等の購入に対する補助金の内容を見直し、R8年度から補助対象範囲を拡大する要綱改正を行った。	—
			有価資源回収事業	環境課	家庭から排出される空ビン・アルミ缶・スチール缶・紙パック・新聞紙・雑誌・ダンボール・古着等の有価資源は、各自治区・子ども会等の資源回収団体により資源回収を行い、回収量に応じて報償金を支給する。	【継続】家庭から排出される空ビン・アルミ缶・スチール缶・紙パック・新聞紙・雑誌・ダンボール・古着等の有価資源は、各自治区・子ども会等の資源回収団体により資源回収を行い、回収量に応じて報償金を支給する。 【新規】団体の活動を支援するため、R8年度から報償金を値上げする要綱改正を行った。	—
			はんだ環境パートナーシップ委員への登用（新）	環境課	アイデアを実現できるよう参画する仕組みとして、環境基本計画に係る施策の企画立案を行う「はんだ環境パートナーシップ会議」の委員を13名委嘱し、年3回会議を開催することができた。	【継続】13名の委員を委嘱し、年2回の会議を開催し、テーマに沿った話し合いを行うことができた。	【継続】13名の委員を委嘱し、継続した話し合いを実施するとともに、年2回の会議以外でも関係する事業のアドバイスをもらうなど、連携をしていく。
2	子どもへの教育	次世代を担う子どもたちに教育をすることで、ゼロカーボンについて知ってもらおう。また、ボランティア体験やごみ処理施設見学ツアー等のイベントを開催して、学びの機会を作る。	環境保全標語コンテスト（新）	環境課	地域環境から身近な生活環境まで様々な環境問題や課題に適切に対応していくためには、個々の環境意識を向上させることが必要であるため、在住・在勤・在学の方より作品を募集し、表彰・掲示を行い、環境保全の啓発に活用する。	【継続】地域環境から身近な生活環境まで様々な環境問題や課題に適切に対応していくためには、個々の環境意識を向上させることが必要であるため、在住・在勤・在学の方より作品を募集し、表彰・掲示を行い、環境保全の啓発に活用する。標語募集テーマ：「私の気づき」	—
			市民向け脱炭素啓発事業（新）	環境課	家庭における脱炭素活動の促進や環境意識の向上のため、動画視聴やWEBコンテンツによる啓発を実施する。子育て世代をメインターゲットとし、短い動画や親子で楽しめるコンテンツを整備し、市HPやSNS等でPRすることで、親子時間を活用し脱炭素並びに環境問題について取り組めるよう促す。	【継続】引き続き、家庭における脱炭素活動の促進や環境意識の向上のため、親子で楽しめる短い動画コンテンツを整備し、市HPやSNS等にアップした。	—
			環境学習出前講座	環境課	保育園や小学校、地域団体に環境に関する出前講座を実施し、地域の川や池などを利用して身近な環境について学習する。 メニュー：水生生物調査、水質調査、紙芝居等	地域の川の自然環境に直接触れ、次世代を担う子どもたちが地域を大切にする気持ちを育むことを目的に、保育園1園には環境紙芝居の読み聞かせを、小学校3校には水辺の生き物教室を実施した。	—
			学校指導要領に基づく環境教育	学校教育課	学校指導要領に基づき、環境学習に関する内容がカリキュラムに組み込まれており、以下の例にあるような学年に応じた内容を学習する。 【小学校】 （1年）自然材料によるおもちゃ作りや自然を題材とした絵画（2年）虫取りや野菜を育てる活動（3年）竹炭体験活動（4年）ゆめくりん見学（5年）公害学習（6年）環境に配慮した生活の考察 【中学校】 （1年）SDGsに関わる職業講演会（2年）野外活動（3年）エネルギー学習	学校指導要領に基づき、環境学習に関する内容がカリキュラムに組み込まれており、以下の例にあるような学年に応じた内容を学習する。 【小学校】 （1年）自然材料によるおもちゃ作りや自然を題材とした絵画（2年）虫取りや野菜を育てる活動（3年）昔のくらしを学ぶ（竹炭体験活動）（4年）ゆめくりん見学（5年）公害学習 （6年）環境に配慮した生活の考察 【中学校】 （1年）SDGsに関わる職業講演会（2年）野外活動（3年）省エネルギーと持続可能な社会についての考察	—
			バイオマスガス発電から出た廃ガス・廃熱を利用して栽培したトマトを学校給食へ提供（新）	学校教育課	学校給食の食品残渣を原料の一つとしてしているバイオマスガス発電から出た廃ガス・廃熱を利用して栽培したトマトを市内5中学校の学校給食で提供した。 また、提供に合わせて、化石燃料を使用せずに栽培されていることなど、このトマトとゼロカーボンの関わりについて紹介した資料を学校へ配布し、環境問題への関心を高める食育を実施した。	ミニトマトは小学校給食で提供することが難しく、市内全小中学校での提供ができないことから、令和7年度は給食提供を行わなかった。	令和7年度に実施した学校給食運営協議会における協議を踏まえ、小学校におけるうずら卵の提供再開を決定したことに伴い、同じ形態の食品であるミニトマトについても提供が可能となった。このため、令和8年度は12月に市内小中学校の給食で提供を予定している。

市民討議会提言進捗管理表（令和5年度実施分）

討議テーマ 『このまちの未来は 私たちが守る』`みんなで考えよう、楽しみながらできる持続可能な取組`

地球温暖化防止に向けた、温室効果ガス実質排出量ゼロを目指した脱炭素の取組（ゼロカーボン）について、積極的に楽しみながらできることを考えよう！

No.	提言				取組		
	項目	内容	事業名・事業内容	【担当課】	R6年度	R7年度	R8年度
3	情報発信や既存の取組の周知	SNSやホームページを利用した節電イベントや半田市のごみの量などの数値の情報発信、既存の半田市の取組みである剪定枝粉碎機の有効活用、バイオマス発電の見学会の実施、資源回収やマイレボはんだ、生ごみ処理機購入補助金などの周知をする。	市民向け脱炭素啓発事業（新）（再掲）	環境課	家庭における脱炭素活動の促進や環境意識の向上のため、動画視聴やWEBコンテンツによる啓発を実施する。子育て世代をメインターゲットとし、短い動画や親子で楽しめるコンテンツを整備し、市HPやSNS等でPRすることで、親子時間を活用し脱炭素並びに環境問題について取り組めるよう促す。	【継続】引き続き、家庭における脱炭素活動の促進や環境意識の向上のため、親子で楽しめる短い動画コンテンツを整備し、市HPやSNS等にアップした。	—
			バイオマス発電施設見学ツアー（新）	環境課	市内に3か所あるバイオマス発電所の一つ、サミット半田パワー株式会社（半田バイオマス発電所）を見学し、バイオマス発電の先進事例を学ぶ機会を設けた。	バイオマス発電の見学施設ではないため、工場が稼働している中での受け入れ体制が整っておらず、安全面を考慮して見学会の実施はしなかった。	—
			ごみ量情報発信	環境課	毎月の一人1日当たりのごみの排出量を市報やHPで発信することで、現状を共有し、ごみ削減に向けた意識啓発を行う。	【継続】毎月の一人1日当たりのごみの排出量を市報やHPで発信することで、現状を共有し、ごみ削減に向けた意識啓発を行う。	—
			新規広報媒体の活用	環境課他	既存の広報媒体に加え、新たに導入される広報媒体を積極的に活用し、情報発信を行う。	環境課主催の子ども向けイベント等の参加呼びかけをtetoruを使ってPRした。また、リサイクルセンター見学ツアーは、PRタイムズにあげたことで、2,700件の閲覧と20件の転載があり、広くPRすることができた。	—
4	公共施設を活用した3Rの場所づくり	公民館を活用した3R（リデュース、リユース、リサイクル）の場所づくりを行い、資源回収や生ごみ処理の説明や設備づくり、まだ使えるものや使いたい人とのマッチングをする。また、案内の多言語化・ピクトグラム化等を行い、世代や国籍に関わらず交流できる場として公民館を活用する。	3R促進事業	環境課	「ジモティー」や「おいくら」とリユースに関する協定を締結し、ホームページや「家庭ごみの分別と資源の正しい出し方」冊子でPRするなど、市民のリユース活動促進に向けた啓発を行う。	【継続】「ジモティー」や「おいくら」とリユースに関する協定を締結し、ホームページや「家庭ごみの分別と資源の正しい出し方」冊子でPRするなど、市民のリユース活動促進に向けた啓発を行う。 【新規】リユース促進のため、「もったいないバザール」を開催し、市内のリユース品を回収し、廉価販売するイベントを開催した。	—
			ストックヤード建設事業（新）	環境課	焼却施設跡地に建設予定（R12）のストックヤードにおいて、3Rの拠点としての機能や啓発拠点としての活用を検討する。	【継続】焼却施設跡地に建設予定（R12）のストックヤードにおいて、3Rの拠点としての機能や啓発拠点としての活用を検討する。	—
			地域における3R拠点づくり（新）	環境課	公民館の敷地を利用した資源回収の拠点づくりについて、自治区と協議しながら検討する。（R6調整→R7実施）	公民館の敷地を利用した資源回収の拠点づくりをスタートする。	—